

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H24-D1-4)

孔名: H24-D1-4			コア観察カード				適正化すべき記事内容				報告書柱状図記事				コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度	記事	選定した記事内容			
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>										
79	27.75	28.43	破砕帯	27.75	28.43	破砕部			27.75	28.43	●27.75～28.43m:破砕部 27.75～27.91m:粘土質礫状部(Hb) 上端20°で砂状化し不明瞭。下端15°で直線的にシャープに連続。 径2～3mmの石英粒、径5～10mmのほぼ粘土化した岩片を多く含む。やや軟質。下端は幅2～3mmでマンガン鉱染を受ける。上端側は明褐色、 下端側は明赤灰色でマンガン鉱染部は黒褐色を呈する。幅160mm。 27.91～28.33m:粘土質岩片状部(Hj) 上端15°、下端53°でともに直線的でシャープに連続。幅1～5mmの 灰黄～にぶい黄橙～灰白色の軟質粘土が27.91～27.96mでは10～20° で、27.96m以深では網状に分布する。全体に明褐色～にぶい黄橙色を呈 する。 28.33m:粘土状部(Hc-1) 傾斜53°で直線的にシャープに幅2～5mmの灰黄褐色の軟質な粘土 からなる。 28.33～28.43m:粘土質礫状部(Hb) 上端53°、下端60°でともに直線的でシャープに連続。径1～2mmの 石英粒と径3～10mmの大半が粘土化した花崗斑岩の岩片からなる。軟 質。灰白～明赤灰～明黄褐色を呈する。幅60mm。	・硬軟、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組 織の有無、境界面や細粒部の連続性・直線性、最新活動面の記載は別資料で示 すこととし、柱状図には記載しない。			
80	27.75	27.91	Hb 上端20°、下端15°で、上端は砂状化し不明瞭。 下端は直線的でシャープに連続。φ2～3mm石英 粒、φ5～10mmのほぼ粘土化した岩片を多く含む やや締った硬質粘土。下端は幅2～3mmでマンガン 鉱染を受ける。上端側は明褐色、下端側は明赤灰で マンガン鉱染部は黒褐色。厚さ160mm。	27.75	27.91	Hb 上端20°、下端15°で、上端は砂状化し不明瞭。 下端は直線的でシャープに連続。やや軟質。φ2～ 3mm石英粒、φ5～10mmのほぼ粘土化した岩片を 多く含む 粘土質礫状部からなるやや締った硬質粘 土 。下端は幅2～3mmでマンガン鉱染を受ける。上端 側は明褐色、下端側は明赤灰色でマンガン鉱染 部は黒褐色。厚さ160mm。 含まれる細粒部は局所的に分布。原岩組織が認め られる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片から なる組織が見られる。	27.75	28.43	Hj 上端15°、下端53°で、両端ともに直線的でシャ ープに連続する。幅1～5mmの灰黄(2.5Y 7/2)～にぶ い黄橙(10YR 7/2)～灰白(10YR 8/1)の軟弱粘土 が27.95～28.00mでは10～20°で、28.00m以深で は、網状に岩片間を縫うように分布。全体として粘 土混り岩片状を呈する。色調は明褐色(7.5YR 7/2) ～にぶい黄橙(10YR 7/2)で、厚さ40mm。						
81	27.91	28.33	Hj 上端15°、下端53°で、両端ともに直線的でシャ ープに連続する。幅1～5mmの灰黄(2.5Y 7/2)～にぶ い黄橙(10YR 7/2)～灰白(10YR 8/1)の軟弱粘土 が27.95～28.00mでは10～20°で、28.00m以深で は、網状に岩片間を縫うように分布。全体として粘 土混り岩片状を呈する。色調は明褐色(7.5YR 7/2) ～にぶい黄橙(10YR 7/2)で、厚さ40mm。	27.91	28.33	Hj 上端15°、下端53°で、両端ともに直線的でシャ ープに連続する。幅1～5mmの灰黄(2.5Y 7/2)～にぶ い黄橙(10YR 7/2)～灰白(10YR 8/1)の軟弱粘 土が27.91～27.96mでは10～20°で、27.96m以深 では、網状に岩片間を縫うように分布。全体として 粘土混り岩片状を呈する。 やや軟質で、含まれる細粒部は網目状に分布。原 岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化 した岩片からなる組織が見られる。 色調は明褐色(7.5YR 7/2)～にぶい黄橙(10YR 7/2)で、厚さ40mm。	27.75	28.43							
82	28.33	28.33	Hc-1(土せん断面) 53°、幅2～5mmで直線的でシャープに連続する。 灰黄褐色(10YR 5/2)の軟弱粘土脈。	28.33	28.33	Hc-1(最新活動面) 53°、幅2～5mmで直線的でシャープに連続する。 灰黄褐色(10YR 5/2)の軟質粘土脈。原岩組織が 認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片 からなる組織は見られない。									
83	28.33	28.43	Hb 上端53°、下端60°で、両者とも直線的でシャ ープに連続。φ1～2mmの石英粒と、φ3～10mmの大 半が粘土化したGp岩片からなる軟質な粘土質礫状 部。灰白(GYR 8/1)～明赤灰(2.5R 7/1)～明黄褐 色(10YR 6/6)を呈し、厚さ60mm。	28.33	28.43	Hb 上端53°、下端60°で、両者とも直線的でシャ ープに連続。φ1～2mmの石英粒と、φ3～10mmの大 半が粘土化したGp岩片からなる軟質な粘土質礫状 部。灰白(GYR 8/1)～明赤灰(2.5R 7/1)～明黄褐 色(10YR 6/6)を呈し、厚さ60mm。 含まれる細粒部は網目状に分布。原岩組織が認め られる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片から なる組織が見られる。									
84	27.75	27.91	(破砕度区分欄)記載なし	27.75	27.91	(破砕度区分欄)Hb	27.75	27.91	(破砕度区分)Hb						
85	27.91	27.95	(破砕度区分欄)記載なし	27.91	27.95	(破砕度区分欄)Hj	27.91	27.95	(破砕度区分)Hj						
86	28.43	29.73	岩片は硬さ「C」主体である。30～60°を主体に低 密着割れ目を多く含む。粘土脈をはさむ割れ目は少 ない。28.70m以浅では、割れ目ぞいにマンガン 鉱染し、黒褐色化する。	28.43	29.73	岩片は硬さ「C」主体である。30～60°を主体に低 密着割れ目を多く含む。粘土脈を挟む割れ目は少 ない。 28.70m以浅では、割れ目ぞいにマンガン鉱染し、黒 褐色化する。	28.43	29.73	28.43～29.73m:傾斜30～60°主体の低密着割れ目を多く含む。粘土脈を 挟む割れ目は少ない。				・記事欄以外から読み取れる硬さの情報は記載しない ・マンガン鉱染については下記に具体的に記載した		
87	27.57	27.57	65°割れ目は幅2mmの粘土脈をはさむが、マンガン 鉱染で黒褐色化する。	28.57	28.57	65°割れ目は幅2mmの粘土脈を挟むが、マンガン 鉱染で黒褐色化する。	28.57	28.57	28.57m:傾斜65°で幅2mmの粘土脈を挟むが、マンガン鉱染で黒褐色化 する。						
88	28.71	29.00	(コアの硬さ欄)Rランク	28.71	29.00	(コアの硬さ欄)Oランク	28.71	29.00	(コアの硬さ欄)Oランク						

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H24-D1-4)

孔名: H24-D1-4

	コア観察カード			適正化すべき記事内容			報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
	上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度	記事	
			記事 コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			記事 追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			記事 選定した記事内容	
89	29.48	29.73	(コアの形状欄) Vランク	29.48	29.73	(コアの形状欄) IVランク	29.48	29.73	(コアの形状欄) IVランク	-
90	29.73	30.20	硬質で、割れ目も少ない。ほぼ未風化、未変質である。	29.73	30.20	硬質で、割れ目も少ない。ほぼ未風化、未変質である。	29.73	30.20	29.73~30.20m: 硬質で割れ目も少ない。ほぼ未風化、未変質である。	-
91	30.20	31.03	低密着割れ目も多いが、概ね3cm以上の割れ目間隔のコア形状IVである。割れ目、低密着割れ目は30~50°主体で、両者ともに薄く砂状化する部分もある。	30.20	31.03	低密着割れ目も多いが、概ね3cm以上の割れ目間隔のコア形状IVである。割れ目、低密着割れ目は30~50°主体で、両者ともに薄く砂状化する部分もある。	30.20	31.03	30.20~31.03m: 低密着割れ目も多いが、概ね3cm以上の割れ目間隔である。割れ目、低密着割れ目は傾斜30~50°が主体で、それらに沿って薄く砂状化する部分もある。	記事欄以外から読み取れるコア形状の情報は記載しない
92	31.03	32.30	60~70°割れ目、低密着割れ目が主体で、一部で、これらに斜交~直交する40~50°割れ目、低密着割れ目も分布する。割れ目ごとに風化し、薄く砂状化する部分もあるが、粘土脈は殆んどはさまない。	31.03	32.30	60~70°割れ目、低密着割れ目が主体で、一部で、これらに斜交~直交する40~50°割れ目、低密着割れ目も分布する。割れ目ごとに風化し、薄く砂状化する部分もあるが、粘土脈は殆んどはさまない。 31.25~31.40m間はやや湾曲した傾斜80~90°で、31.60~31.61mでは傾斜50°で、幅5~20mm程度のカリ長石の濃集部の脈を伴う。	31.03	32.30	31.03~32.30m: 傾斜60~70°の割れ目、低密着割れ目が主体で、一部でこれらに斜交~直交する40~50°の割れ目、低密着割れ目も分布する。割れ目ごとに風化し、薄く砂状化する部分もあるが、粘土脈は殆んどはさまない。 31.25~31.40m間はやや湾曲した傾斜80~90°で、31.60~31.61mでは傾斜50°で、幅5~20mm程度のカリ長石の濃集部の脈を伴う。	-
93	31.37	31.51	1~1.5cm間隔で60~70°割れ目~低密着割れ目が平行に分布する。	-	-	-	31.37	31.51	31.37~31.51m: 1~1.5cm間隔で傾斜60~70°の割れ目、低密着割れ目が平行に分布する。	-
94	31.75	32.30	85~90°割れ目がやや波打って連続する。割れ目の一部に軟質な灰白色粘土幅1~2mmが付着する。	31.75	32.30	85~90°割れ目がやや波打って連続する。割れ目の一部に軟質な灰白色粘土幅1~2mmが付着する。	31.75	32.30	31.75~32.30m: 傾斜85~90°の割れ目がやや波打って連続する。割れ目の一部に幅1~2mmの軟質な灰白色粘土が付着する。	-
95	32.13	32.13	60°、幅5~8mmでφ1~3mmに角礫化した破砕割れ目が分布する。基質は砂質土で、マンガン鉱染により黒褐色する。	32.13	32.13	60°、幅5~8mmでφ1~3mmの線を含むマンガン脈を挟む。角礫化に残っている部分があり、その岩片は移動や回転をしていない。角礫化した破砕割れ目が分布する。基質は砂質土で、マンガン鉱染により黒褐色する。	32.13	32.13	32.13m: 傾斜60°、幅5~8mmでφ1~3mmの線を含むマンガン脈を挟む。角礫化に残っている部分があり、岩片は移動や回転をしていない。	-
96	32.30	33.10	一部で硬さBの硬質岩片を含んでいる。30~50°割れ目と、これらに斜交~直交する60~80°割れ目が主体。32.86m~80°割れ目の上盤側は、割れ目ごとの砂状化はないが、下盤側の一部の割れ目では、割れ目ごとの一部が風化で薄く砂状化する。粘土化部や粘土脈は全区間を通じて殆んど分布しない。33.00~33.10mの細かい割れ目に厚さ0.5mm以下の粘土フィルムが付着している。	32.30	33.10	一部で硬さBの硬質岩片を含んでいる。30~50°割れ目と、これらに斜交~直交する60~80°割れ目が主体。32.86m~80°割れ目の上盤側は、割れ目ごとの砂状化はないが、下盤側の一部の割れ目では、割れ目ごとの一部が風化で薄く砂状化する。32.86m、傾斜60°、32.76m、傾斜30°に幅5~15mmのカリ長石の濃集した脈を挟む。粘土化部や粘土脈は全区間を通じて殆んど分布しない。33.00~33.10mの細かい割れ目に厚さ0.5mm以下の粘土フィルムが付着している。	32.30	33.10	32.30~33.10m: 一部で硬さBの硬質岩片を含む。傾斜30~50°の割れ目と、これらに斜交~直交する60~80°の割れ目が主体である。32.86mの傾斜80°の割れ目の上盤側は、割れ目ごとの砂状化はないが、下盤側の一部では、割れ目ごとの一部が風化で薄く砂状化する。32.86mに傾斜60°で、32.76mに傾斜30°で幅5~15mmのカリ長石の濃集した脈を挟む。粘土化部や粘土脈は全区間を通じて殆んど分布しない。33.00~33.10mの細かい割れ目に幅0.5mm以下のフィルム状の粘土が付着する。	-
97	33.00	33.10	(割れ目状態欄) bランク (コアの形状欄) IVランク (コアの硬さ欄) Cランク (風化欄) γランク	33.00	33.10	(割れ目状態欄) cランク (コアの形状欄) Vランク (コアの硬さ欄) Dランク (風化欄) δランク	33.00	33.10	(割れ目状態欄) cランク (コアの形状欄) Vランク (コアの硬さ欄) Dランク (風化欄) δランク	-
98	33.10	33.05	硬さBと硬質岩片からなり、割れ目の面は一部酸化褐色化するが砂状化は粘土ははさまない。	33.10	33.05	硬さBと硬質岩片で、割れ目の面は一部酸化褐色化するが砂状化や粘土は挟まない。	33.10	33.05	33.10~33.05m: 割れ目の面は一部酸化褐色化するが、砂状化や粘土は挟まない。	記事欄以外から読み取れる硬さの情報は記載しない
99	33.24	33.24	75°、幅1~2mmの石英脈が母岩に密着して連続。	-	-	-	33.24	33.24	33.24m、傾斜75°で幅1~2mmの石英脈が母岩に密着して連続する。	-
100	-	-	-	33.29	33.29	傾斜50°、幅3mm程度のカリ長石の脈を挟む。	33.29	33.96	33.29~33.96m: 傾斜45~60°で幅2~5mm程度のカリ長石の脈を3条挟む。	・カリ長石の脈状濃集部をまとめて書きした
101	-	-	-	33.53	33.53	傾斜45°、幅2~4mm程度のカリ長石の脈を挟む。	-	-	-	・上記でまとめて書きしたため記載しない

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H24-D1-4)

孔名: I124 D1-4

コア観察カード			適正化すべき記事内容			報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)	
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度	選定した記事内容		
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>					
102	33.65	37.15	一部、34.00～34.30mで割れ目が多いコア形状Vを呈するが、これ以外はコア形状IVである。硬さは34.64m以浅はC主体、以深はBと硬質である。割れ目は30～50°主体であるが、一部で、これらに斜交～直交する50～60°割れ目も分布する。また、以上の2系の割れ目と交差する70～90°割れ目が35.42m付近、36.50m付近などに分布する。各割れ目は、34.64m以浅では一部の割れ目ぞいが薄く砂状化するが、以深では砂状化しないものが主体である。	33.65	37.15	一部、33.78～34.05mで割れ目が多いコア形状Vを呈するが、これ以外はコア形状IVである。硬さは34.64m以浅はC主体、以深はBと硬質である。割れ目は30～50°主体であるが、一部で、これらに斜交～直交する50～60°割れ目も分布する。また、以上の2系の割れ目と交差する70～90°割れ目が35.42m付近、36.50m付近などに分布する。各割れ目は、34.64m以浅では一部の割れ目ぞいが薄く砂状化するが、以深では砂状化しないものが主体である。 33.75m、傾斜35°、幅20mm程度で珪化した脈を挟む。 33.96m、傾斜60°、幅5mm程度のカリ長石の脈を挟む。	33.65	37.15	33.65～37.15m:34.64m以浅はやや硬質主体、それ以深は硬質である。割れ目は傾斜30～50°が主体であるが、一部でこれらに斜交～直交する50～60°の割れ目も分布する。また、これらの2系統の割れ目と交差する70～90°の割れ目が35.42m付近、36.50m付近などに分布する。34.64m以浅では一部の割れ目ぞいが薄く砂状化するが、それ以深では砂状化しないものが主体である。 33.75mに傾斜35°で幅20mm程度の珪化した脈を挟む。	記事欄以外から読み取れる硬さ、コア形状の情報は記載しない カリ長石の脈状濃集部は上記でまとめ書きしたため記載しない
103	33.78	34.05	(コアの形状欄)IVランク	33.78	34.05	(コアの形状欄)Vランク	33.78	34.05	(コアの形状欄)Vランク	-
104	34.00	34.00	60°、幅1～5mmの軟弱な白色粘土脈が直線的でシャープに連続し、その下盤側は34.22m付近まで風化で軟質化している。	34.00	34.00	60°、幅1～5mmの硬質な白色鉱物脈が直線的でシャープに連続し、その下盤側は34.22m付近まで風化で軟質化している。	34.00	34.00	34.00m、傾斜60°で幅1～5mmの硬質な白色鉱物脈が直線的にシャープに連続する。下盤側34.22m付近まで風化で軟質化する。	-
105	34.57	34.63	34.57m・45°～34.63m・65°は細かい割れ目が発達し、全体が軟化(硬さD)。粘土化はないが若干砂状化する。また、マンガン鉱染を受け黒褐色化する。	34.57	34.63	34.57m・45°～34.63m・65°は細かい割れ目が発達し、全体が軟質化(硬さD)。粘土化はないが若干砂状化する。また、マンガン鉱染を受け黒褐色化する。	34.57	34.63	34.57m・45°～34.63m・65°間は細かい割れ目が発達し、全体に硬さ「D」に軟質化する。粘土化はないが、若干砂状化する。マンガン鉱染を受け黒褐色化する。	-
106	35.40	35.40	40°周辺は70°割れ目と交差し、φ20～30mmに細片状するが、岩片は硬く(硬さB)、砂状化や粘土化、粘土脈は伴わない。	35.40	35.40	40°周辺は70°割れ目と交差し、φ20～30mmに細片状を呈するが、岩片は硬く(硬さB)、砂状化や粘土化、粘土脈は伴わない。	35.40	35.40	35.40m、傾斜40°の割れ目と70°の割れ目が交差し、径20～30mmに細片状を呈するが、岩片は硬く、砂状化や粘土化、粘土脈は伴わない。	-
107	35.42	38.95	(変質欄)3ランク	35.42	38.95	(変質欄)2ランク	35.42	38.95	(変質欄)2ランク	-
108	35.90	35.90	80°低密着割れ目の一部に幅0.5mmの軟弱な白色粘土が付着するが、連続性はなく、粘土脈は形成していない。	35.90	35.90	80°低密着割れ目の一部に幅0.5mmの軟弱な白色粘土が付着するが、連続性はなく、粘土脈は形成していない。	35.90	35.90	35.90m、傾斜80°の低密着割れ目の一部に幅0.5mmの軟弱な白色粘土が付着するが、連続性は無い。	-
109	36.30	37.20	75～90°の高角度割れ目で、処々で50°前後の割れ目で切られている。一部で砂状化するが、粘土化や粘土脈ははさまない。	36.30	37.20	75～90°の高角度割れ目は、所々で50°前後の割れ目で切られる。切られている一部で砂状化するが、粘土化や粘土脈は挟まない。	36.30	37.20	36.30～37.20m:傾斜75～90°の高角度割れ目が多く分布し、所々で傾斜50°前後の割れ目で止められる。一部で砂状化するが、粘土化や粘土脈は挟まない。	-
110	36.37	36.37	45°はせん断性割れ目で、交差する75～80°割れ目を切っている(変質量30mm、左ズレ)。割れ目の一部には幅1mmの風化で生じた砂を挟む。	36.37	36.37	45°のせん断性割れ目は、交差する75～80°割れ目を止めている切っ迫している(変質量30mm、左ズレ)。割れ目の一部には幅1mmの風化で生じた砂を挟むが、粘土は伴わない。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	36.37	36.37	36.37m:傾斜45°の割れ目は交差する傾斜75～80°の割れ目を止めている。割れ目の一部には幅1mmで風化による砂を挟むが、粘土は伴わない。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	-
111	36.68	36.68	55°幅1～2mmの石英脈が母岩に密着して分布。36.69mで上位の高角度割れ目に切られるが、変位はない。	36.68	36.68	55°幅1～2mmの石英脈が母岩に密着して分布。36.69mで上位の高角度割れ目を横断する。に切られるが、変位はない。	36.68	36.68	36.68m:傾斜55°で幅1～2mmの石英脈が母岩に密着して分布し、36.69mで上位の高角度割れ目を横断する。	-
112	36.80	37.00	75～80°の高角度割れ目中の幅2～4mmの砂はマンガン鉱染により黒褐色化する。	-	-	-	36.80	37.00	36.80～37.00m:傾斜75～80°の高角度割れ目に幅2～4mmでマンガン鉱染により黒褐色化した砂を挟む。	-

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H24-D1-4)

孔名: H24-D1-4

コア観察カード			適正化すべき記事内容				報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)	
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度	選定した記事内容			
									コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>		追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>
113	37.15	39.60	37.15	39.41	37.15	39.41	37.15	39.41	記事欄以外から読み取れる硬さの情報は記載しない 灰白色粘土の挟在については下記に具体的に記載した		
					上位に比べ、割れ目も多くなる。硬さは37.68～38.95m間のBが主体で、その上下位側に硬さ「C」ないし「D」が分布する。割れ目は40～50°が主体で、これに斜交～直交する60～80°割れ目も分布する。 38.95～39.41mの硬さD区間では、割れ目は消滅したものが多く、割れ目は硬さ「C」の37.15～37.68m、39.41～39.60mでは粘土化部や粘土脈の挟在は殆んどないが、割れ目ぞいに薄く砂状化するものもある。硬さBの37.68～38.95mでは割れ目は風化で薄く粘土化するが挟在物はない。硬さDの38.95～39.41mでは幅1mm前後の灰白色軟弱粘土脈を挟在することが多い。			上位に比べ、割れ目も多くなる。硬さは37.68～38.95m間のBが主体で、その上下位側に硬さ「C」ないし「D」が分布する。割れ目は40～50°が主体で、これに斜交～直交する60～80°割れ目も分布する。 38.95～39.41mの硬さD区間では、割れ目は消滅したものが多く、割れ目は硬さ「C」の37.15～37.68m、39.41～39.60mでは粘土化部や粘土脈の挟在は殆んどないが、割れ目ぞいに薄く砂状化するものもある。硬さBの37.68～38.95mでは割れ目は風化で薄く粘土化するが挟在物はない。硬さDの38.95～39.41mでは幅1mm前後の灰白色軟弱粘土脈を挟在することが多い。			37.15～39.41m:上位に比べ割れ目が多く、傾斜40～50°が主体で、これに斜交～直交する60～80°の割れ目も分布する。37.15～37.68m間では粘土化部や粘土脈の挟在は殆んどないが、割れ目ぞいに薄く砂状化するものもある。37.68～38.95m間では割れ目は風化で薄く粘土化するが挟在物はない。38.95～39.41m間では割れ目が消滅することが多い。
114	37.18	37.68	37.15	37.68	マンガン鉱染を受け、割れ目とその周辺は黒褐色化し、全体的には褐灰色(7.5YR 5/1)を呈する。	37.15	37.68	マンガン鉱染を受け、割れ目とその周辺は黒褐色化し、全体的には褐灰色(7.5YR 5/1)を呈する。	37.15	37.68	37.15～37.68m:マンガン鉱染を受け、割れ目とその周辺は黒褐色化し、全体的には褐灰色を呈する。
115	37.18	37.68	37.18	37.68	(色調欄)7.5YR6/2灰褐	37.18	37.68	(色調欄)7.5YR5/1褐灰	37.18	37.68	(色調欄)褐灰
116	37.68	37.89	37.68	37.89	(コアの形状欄)Ⅴランク	37.68	37.89	(コアの形状欄)Ⅳランク	37.68	37.89	(コアの形状欄)Ⅳランク
117	38.01	38.12	38.01	38.12	(コアの形状欄)Ⅴランク	38.01	38.12	(コアの形状欄)Ⅳランク	38.01	38.12	(コアの形状欄)Ⅳランク
118	38.12	38.20	38.12	38.20	割れ目ぞいに褐色化するが、岩片は硬さBで劣化していない。	38.12	38.20	割れ目ぞいに褐色化するが、岩片は硬さBで劣化していない。	38.12	38.20	38.12～38.20m:割れ目ぞいに褐色化するが、岩片は劣化していない。
119	38.23	38.95	38.23	38.95	(コアの形状欄)Ⅴランク	38.23	38.95	(コアの形状欄)Ⅳランク	38.23	38.95	(コアの形状欄)Ⅳランク
120	38.95	39.41	38.95	39.41	風化と変質で軟化している。特に最下位側の39.34～39.41mは、上端25°、下端30°で囲まれ灰白～にぶい橙色の軟弱な粘土脈が20～30°、60～65°幅1～4mmで多く分布する。	38.95	39.41	風化と変質で軟質化している。特に最下位側の39.34～39.41mは、上端25°、下端30°で囲まれ灰白～にぶい橙色の軟弱な粘土脈が20～30°、60～65°幅1～4mmで多く分布する。	38.95	39.41	38.95～39.41m:風化と変質で軟質化する。上端25°、下端30°で囲まれた39.34～39.41mの区間は、傾斜20～30°や60～65°で幅1～4mmの灰白～にぶい橙色の軟弱な粘土脈が多く分布する。
121	38.95	39.41	38.95	39.41	(岩級区分欄)CL	38.95	39.41	(岩級区分欄)CM	38.95	39.41	(岩級区分欄)CMに含める
122	39.41	39.60	39.41	39.60	硬さBも含んでおり、硬質では未風化、未変質である。	39.41	39.60	硬さBも含んでおり、硬質では未風化、未変質である。	39.41	39.60	-
123	39.41	40.21	39.41	40.21	(割れ目状態欄)cランク	39.41	40.21	(割れ目状態欄)bランク	39.41	40.21	(割れ目状態欄)bランク
124	39.41	39.60	39.41	39.60	(コアの形状欄)Ⅴランク (コアの硬さ欄)Cランク	39.41	39.60	(コアの形状欄)Ⅳランク (コアの硬さ欄)Bランク	39.41	39.60	(コアの形状欄)Ⅳランク (コアの硬さ欄)Bランク
125	39.41	40.00	39.41	40.00	(岩級区分欄)CL	39.41	40.00	(岩級区分欄)CM	39.41	40.00	(岩級区分欄)CM
126	39.50	39.50	39.50	39.50	20°幅2～4mmの石英脈が母岩に密着して分布。	39.50	39.50	20°幅2～4mmの白色変質脈が分布。	39.50	39.50	39.50m:傾斜20°で幅2～4mmの白色変質脈を挟む。

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H24-D1-4)

孔名: H24-D1-4

コア観察カード			適正化すべき記事内容			報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)	
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度	選定した記事内容		
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>					
127	39.60	39.90	硬さBで上位のBよりも割れ目が少なくなる。ほぼ未風化、未変質で堅硬である。	39.41	40.00	硬さBで上位のBよりも割れ目が少なくなる。ほぼ未風化、未変質で堅硬である。	39.41	40.00	39.41～40.00m: 上位より割れ目が少なくなる。ほぼ未風化、未変質で堅硬である。	・記事欄以外から読み取れる硬さの情報は記載しない
128	39.90	40.68	40～50° 割れ目がほぼ平行に分布する。風化で割れ目の一部が薄く砂状化する。また、幅1mm以下の軟弱な灰白色粘土脈をはさむが、分布は少ない。	40.00	40.68	40～50° 割れ目がほぼ平行に分布する。風化で割れ目の一部が薄く砂状化する。また、幅1mm以下の軟弱な灰白色粘土脈を挟むが、分布は少ない。	40.00	40.68	40.00～40.68m: 傾斜40～50° の割れ目がほぼ平行に分布する。風化で割れ目の一部が薄く砂状化する。幅1mm以下の軟弱な灰白色粘土脈を挟むが、分布は少ない。	-
129	39.90	40.00	(コアの形状欄) Vランク	39.90	40.00	(コアの形状欄) IVランク	39.90	40.00	(コアの形状欄) IVランク	-
130	39.90	40.21	(コアの硬さ欄) Cランク	39.90	40.21	(コアの硬さ欄) Bランク	39.90	40.21	(コアの硬さ欄) Bランク	-
131	20.24	20.28	20.24m・40° ～20.28m・45° 割れ目に囲まれて、やや軟化する。上端割れ目はマンガン鉱染により黒褐色化する。全体に砂状～粘土化は伴わない。	40.24	40.28	40.24m・40° ～40.28m・45° 割れ目に囲まれて、やや軟化する。上端割れ目はマンガン鉱染により黒褐色化する。全体に砂状～粘土化は伴わない。	40.24	40.28	40.24m・40° ～40.28m・45° の割れ目に囲まれて、やや軟化する。上端割れ目はマンガン鉱染により黒褐色化する。全体に砂状～粘土化は伴わない。	-
132	40.44	40.68	(割れ目状態欄) cランク	40.44	40.68	(割れ目状態欄) bランク	40.44	40.68	(割れ目状態欄) bランク	-
133	40.50	-	40.50m以深では硬さBと堅硬部も混える。	-	-	-	-	-	-	・記事欄以外から読み取れる硬さの情報は記載しない
134	40.50	40.68	(コアの硬さ欄) Cランク	40.50	40.68	(コアの硬さ欄) Bランク	40.50	40.68	(コアの硬さ欄) Bランク	-
135	40.68	41.20	硬さBと堅硬であるが、41.20mでは75～80° の高角度割れ目を境として硬さDの軟質部と接する。高角度割れ目は、41.00～41.53mまでやや湾曲しながら連続している。幅5～10mm程度が砂状～φ3～5mm程度の破砕礫状を呈している。割れ目は20～30° が主体であるが、分布は少ない。ただし、20～30° と70° 前後の低密着割れ目も分布し、コア形状IVとする。割れ目の挟入物はない。	40.68	41.20	硬さBと堅硬であるが、41.20mでは75～80° の高角度割れ目を境として硬さDの軟質部と接する。高角度割れ目は、41.00～41.53mまでやや湾曲しながら連続している。幅5～10mm程度が砂状～φ3～5mm程度の破砕礫状を呈している。礫状部の礫に移動や回転は見られない。割れ目は20～30° が主体であるが、分布は少ない。ただし、20～30° と70° 前後の低密着割れ目も分布し、コア形状IVとする。割れ目の挟入物はない。	40.68	41.62	40.68～41.62m: 傾斜75～85° の高角度割れ目が41.00～41.53mの間でやや湾曲しながら連続する。幅5～10mm程度が砂状～径3～5mm程度の礫状を呈する。礫状部の礫に移動や回転は見られない。高角度割れ目に囲まれた区間は全体に軟質化し、高角度割れ目の一部には幅0.5mmの軟弱な灰白色粘土がわずかに付着する。高角度割れ目と斜交～直交する割れ目は傾斜20～50° が主体で、傾斜70° 前後の低密着割れ目も分布する。割れ目沿いの一部は薄く砂状化するが、粘土部や粘土脈は殆んど分布しない。	・記事欄以外から読み取れる硬さやコア形状の情報は記載しない ・記事内容がほぼ同じであるため、41.20～41.62mの記事を含めて記載した
136	-	-	-	40.95	40.95	傾斜45°、幅2mm程度の石英脈を挟む。白雲母が晶出する。	40.95	40.95	40.95m: 傾斜45° で幅2mm程度の石英脈を挟む。白雲母が晶出する。	-
137	41.20	41.62	上端75～80°、下端80～85° の高角度割れ目に囲まれて、全体に軟化している。高角度割れ目と斜交～直交する20～50° 割れ目が主体で、割れ目沿いの一部は薄く砂状化するが、粘土部や粘土脈は殆んど分布せず。高角度割れ目の一部に幅0.5mmの灰白色軟弱粘土がわずかに付着する程度である。	41.20	41.62	上端75～80°、下端80～85° の高角度割れ目に囲まれて、全体に軟化している。高角度割れ目と斜交～直交する20～50° 割れ目が主体で、割れ目沿いの一部は薄く砂状化するが、粘土部や粘土脈は殆んど分布せず。高角度割れ目の一部に幅0.5mmの灰白色軟弱粘土がわずかに付着する程度である。	-	-	-	・上記でまとめ書きしたため記載しない
138	41.52	41.62	40° と85° 割れ目に囲まれて、φ5～10mmの角礫に破砕されて、締った砂質土の基質中にマンガン鉱染が認められる。	41.52	41.62	40° と85° 割れ目に囲まれて、φ5～10mmの角礫に破砕されて、硬質な砂質土の基質中にマンガン鉱染が認められる。割れ目や角礫には挟入物が付着していない。角礫状部は連続していない。	41.52	41.62	41.52～41.62m: 傾斜40° と85° の割れ目に囲まれて、径5～10mmの角礫状を呈する。硬質な砂状の基質中にマンガン鉱染が認められる。割れ目や角礫には挟入物が付着せず、角礫状部は連続しない。	-

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H24-D1-4)

孔名: H24-D1-4

	コア観察カード		適正化すべき記事内容		報告書柱状図記事		コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)		
	記事	記事	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)	記事	記事			
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事	
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			選定した記事内容	
139	41.62	42.37	41.62	42.37	41.62	42.37	41.62	42.37	記事欄以外から読み取れる硬さや割れ目の多寡の情報は記載しない
140	41.92	41.92	-	-	-	-	41.92	41.92	-
141	42.37	42.61	42.37	42.61	42.37	42.61	42.37	42.61	-
142	42.43	42.43	42.43	42.43	42.43	42.43	42.43	42.43	-
143	42.61	43.34	42.61	43.34	42.61	43.34	42.61	43.34	記事欄以外から読み取れる硬さの情報は記載しない
144	43.39	43.39	43.29	43.29	43.29	43.29	43.29	43.29	-
145	43.34	45.00	43.34	45.00	43.34	45.00	43.34	45.00	記事欄以外から読み取れる硬さの情報は記載しない
146	43.34	43.34	43.34	43.34	43.34	43.34	43.34	43.35	-
147	43.34	44.40	43.34	44.40	43.34	44.40	43.34	44.40	-
148	44.67	44.67	44.67	44.67	44.67	44.67	44.67	44.67	-

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H24-D1-4)

孔名: H24-D1-4

No.	コア観察カード		適正化すべき記事内容		報告書柱状図記事		コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)	
	上端深度	下端深度	記事	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度		記事
			記事 コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>	記事 追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			選定した記事内容	
149	44.83	44.83	60° 割れ目の一部に幅1~2mmの軟弱白色粘土が付着。粘土脈としての連続性はない。	60° 割れ目の一部に幅1~2mmの軟弱白色粘土が付着。粘土脈としての連続性はない。	44.83	44.83	44.83m: 傾斜60° の割れ目の一部に幅1~2mmの軟弱白色粘土が付着する。	-
150	44.83	45.15	(割れ目状態欄) bランク	(割れ目状態欄) bランク	44.83	45.15	(割れ目状態欄) bランク	-
151	45.00	45.45	60~70° 割れ目、低密着割れ目が主体で、これらに斜交~直交する40~60° 割れ目、低密着割れ目が分布する。一部の割れ目でごく薄く砂状化するが、粘土脈ははさまない。各割れ目はマンガン鉱染で薄く黒褐色化する。	60~70° 割れ目、低密着割れ目が主体で、これらに斜交~直交する40~60° 割れ目、低密着割れ目が分布する。一部の割れ目でごく薄く砂状化するが、粘土脈ははさまない。各割れ目はマンガン鉱染で薄く黒褐色化する。	45.00	45.45	45.00~45.45m: 傾斜60~70° の割れ目、低密着割れ目が主体で、これらに斜交~直交する40~60° の割れ目、低密着割れ目が分布する。一部の割れ目はごく薄く砂状化するが、粘土脈ははさまない。割れ目はマンガン鉱染で薄く黒褐色化する。	-
152	45.15	45.45	(コアの形状欄) IVランク	(コアの形状欄) Vランク	45.15	45.45	(コアの形状欄) Vランク	-
153	45.24	45.24	45° 幅2~18mmと膨縮して連続するが、母岩に対し、上盤側の一部は割れ目化、下盤側は密着する。	45° 幅2~18mmと膨縮して石英脈が連続するが、母岩に対し、上盤側の一部は割れ目化、下盤側は密着する。	45.24	45.24	45.24m: 傾斜45° で幅2~18mmと膨縮した石英脈が連続する。上盤側の一部は割れ目化、下盤側は密着する。	-
154	45.45	46.06	70~80° とこれに斜交~直交する40~60° 割れ目、低密着割れ目が主体。特に低密着割れ目が多く、約10~30mm間隔で分布している。堅硬な硬さBからなり、割れ目には挟在物は殆んど分布しない。	-	-	-	45.45~46.06m: 傾斜70~80° とこれに斜交~直交する40~60° の割れ目、低密着割れ目が主体で、特に低密着割れ目が多く、約10~30mm間隔で分布する。割れ目には挟在物は殆んど分布しない。	記事欄以外から読み取れる硬さの情報は記載しない
155	45.81	45.81	45° 割れ目はせん断性割れ目で、直交する70° 割れ目を切っている(変位量4mm左ズレ)。	45° 割れ目のせん断性割れ目は、直交する70° 割れ目で横断される。を切っている(変位量4mm左ズレ)。割れ目には挟在物が認められない。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	45.81	45.81	45.81m: 傾斜45° の割れ目は、直交する傾斜70° の割れ目で横断される。割れ目には挟在物が認められない。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	-
156	46.06	46.31	上位から続く硬さBで塊状(Ⅲ)。互いに直交する50° 前後の割れ目からなる。割れ目には挟在物はない。	上位から続く硬さBで塊状(Ⅲ)。互いに直交する50° 前後の割れ目が分布する。割れ目には挟在物はない。	46.06	46.31	46.06~46.31m、互いに直交する傾斜50° 前後の割れ目が分布する。割れ目には挟在物は伴わない。	記事欄以外から読み取れる硬さ、コア形状の情報は記載しない
157	46.31	46.67	40~50° 割れ目、低密着割れ目が約10mm間隔と細かく平行に分布し、一部で薄く砂状化する。岩片は硬さBも含むが全体にC主体	-	-	-	46.31~46.67m: 傾斜40~50° の割れ目、低密着割れ目が約10mm間隔と細かく平行に分布し、一部で薄く砂状化する。一部の岩片は硬質であるが、全体にやや硬質である。	記事欄以外から読み取れる硬さの情報は記載しない
158	46.31	46.53	(風化欄) δランク	(風化欄) γランク	46.31	46.53	(風化欄) γランク	-
159	46.67	47.48	硬さBと堅硬で、割れ目も少ない。46.45~47.00mに85° の低密着割れ目が分布する。割れ目、低密着割れ目とも挟在物はない。	硬さBと堅硬で、割れ目も少ない。46.85~47.00mに85° の低密着割れ目が分布する。割れ目、低密着割れ目とも挟在物はない。	46.67	47.48	46.67~47.48m: 割れ目、低密着割れ目とも挟在物はない。46.85~47.00mに傾斜85° の低密着割れ目が分布する。	記事欄以外から読み取れる硬さ、コア形状の情報は記載しない
160	47.48	47.67	岩片はBと堅硬であるが、60~85° の低密着割れ目が分布し細片化する。	-	-	-	47.48~47.67m: 傾斜60~85° の低密着割れ目が分布し細片化する。	記事欄以外から読み取れる硬さの情報は記載しない

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H24-D1-4)

孔名: H24-D1-4

	コア観察カード			適正化すべき記事内容			報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
	上端深度	下端深度	記事 記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度	記事 記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度	記事 記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)	
			記事 記事 コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			記事 記事 追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			記事 記事 選定した記事内容	
161	47.67	48.52	40~50° 割れ目主体で平行に分布。48.17m以浅は風化で割れ目ぞいの一部は砂状化する。以深は風化弱くなり砂状化しない。また、粘土脈は殆んどはさまない。	47.67	48.52	40~50° 割れ目主体で平行に分布。48.17m以浅は風化で割れ目ぞいの一部は砂状化する。以深は風化弱くなり砂状化しない。また、粘土脈は殆んどはさまない。	47.67	48.84	47.67~48.84m: 傾斜40~50° の割れ目が平行に分布し、傾斜40~50° ないし60~70° の低密着割れ目も分布する。48.17m以浅は風化で割れ目ぞいの一部は砂状化する。砂や粘土脈は殆んどはさまない。	・傾斜40~50° の割れ目が平行に分布する区間をまとめて書きした ・記事欄以外から読み取れる風化の情報は記載しない
162	48.17	48.17	50° 割れ目に幅5~7mmの風化した明褐色(7.5YR 5/6)の砂をはさむ。両側幅5~10mmは淡緑灰色化(緑泥石化)する。φ0.1mmの微細な雲母が晶出する。	48.17	48.17	50° 割れ目に幅5~7mmの風化した明褐色(7.5YR 5/6)の砂を挟む。両側幅5~10mmは淡緑灰色化(緑泥石化)する。φ0.1mmの微細な白雲母が晶出する。	48.17	48.17	48.17m: 傾斜50° で幅5~7mmの風化した明褐色の砂を挟む。両側幅5~10mmは緑泥石化により淡緑灰色化する。径0.1mmの微細な白雲母が晶出する。	-
163	48.42	49.17	(割れ目状態欄)cランク	48.42	49.17	(割れ目状態欄)bランク	48.42	49.17	(割れ目状態欄)bランク	-
164	48.84	49.17	(コアの形状欄)Vランク	48.84	49.17	(コアの形状欄)IVランク	48.84	49.17	(コアの形状欄)IVランク	-
165	48.42	49.17	(岩級区分欄)CL	48.42	49.17	(岩級区分欄)CM	48.42	49.17	(岩級区分欄)CM	-
166	48.52	48.84	上位と同様、40~50° 割れ目が平行に分布。低密着割れ目は40~50° ないし60~70° で分布。両者とも砂、粘土脈ははさまない。	48.52	48.84	上位と同様、40~50° 割れ目が平行に分布。低密着割れ目は40~50° ないし60~70° で分布。両者とも砂、粘土脈ははさまない。	-	-	-	・上記でまとめて書きしたため記載しない
167	48.84	49.83	40~50° 割れ目、低密着割れ目主体で、49.17m以深では風化が進み、割れ目ぞいが砂状化することが多い。また、一部の割れ目、低密着割れ目で幅0.5mmの軟弱な白~明黄褐色粘土脈をはさむ。	48.84	49.83	40~50° 割れ目、低密着割れ目主体で、49.17m以深では風化が進み、割れ目ぞいが砂状化することが多い。また、一部の割れ目、低密着割れ目で幅0.5mmの軟弱な白~明黄褐色粘土脈を挟む。	48.84	49.83	48.84~49.83m: 傾斜40~50° の割れ目、低密着割れ目が主体で、49.17m以深では割れ目ぞいに砂状化することが多い。一部の割れ目、低密着割れ目で幅0.5mmの軟弱な白~明黄褐色の粘土脈を挟む。	・記事欄以外から読み取れる風化の情報は記載しない
168	49.83	52.07	硬さBと堅硬で20~40° の割れ目が主体である。上端側の49.83~50.04mと50.24~50.32mは緑灰色(7.5GY 5/1)化する(緑泥石化)。粘土化部や粘土脈は伴わないが、緑色化部下端側の50.04~50.11mは若干風化し、割れ目の一部にごく薄い風化砂をはさむ。緑灰色部は主として割れ目方向と調和的に分布している。	49.83	52.07	硬さBと堅硬で20~40° の割れ目が主体である。上端側の49.83~50.03mと50.24~50.32mは緑灰色(7.5GY 5/1)化する(緑泥石化)。粘土化部や粘土脈は伴わないが、緑色化部下端側の50.03~50.11mは若干風化し、割れ目の一部にごく薄い風化砂を挟む。緑灰色部は主として割れ目方向と調和的に分布している。	49.83	52.07	49.83~52.07m: 傾斜20~40° の割れ目が主体で、一部緑泥石化により緑灰色化する。緑灰色部は割れ目方向と調和的に分布する。粘土化部や粘土脈は伴わない。50.03~50.11m間は若干風化し、割れ目の一部にごく薄い砂を挟む。	・記事欄以外から読み取れる硬さや色調の深度の情報は記載しない
169	49.83	50.00	(色調欄)7.5YR5/2灰褐	49.83	50.00	(色調欄)7.5GY5/1緑灰	49.83	50.00	(色調欄)緑灰	-
170	50.81	50.81	40° はせん断性割れ目で、交差する55° 割れ目を切っている(変位量10mm左ズレ)	50.81	50.81	40° のせん断性割れ目は、交差する55° 割れ目を止めている。切っている(変位量10mm左ズレ)割れ目には挟在物が認められない。割れ目周辺の岩壁には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	50.81	50.81	50.81m: 傾斜40° の割れ目は、交差する55° の割れ目を止めている。割れ目には挟在物が認められない。割れ目周辺の岩壁には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	-
171	51.30	51.33	51.30m・38°、51.33m・47° の各割れ目にφ0.1mmと微細な金属鉱物(黄鉄鉱)が晶出している。	-	-	-	51.30	51.33	51.30m、51.33m: 傾斜38°、47° の各割れ目に径0.1mmの微細な黄鉄鉱が晶出する。	-
172	51.44	51.56	割れ目ぞいにやや風化進む。	51.44	51.56	割れ目ぞいにやや風化進む。	-	-	-	-
173	51.44	51.56	(風化欄)δランク	51.44	51.56	(風化欄)γランク	51.44	51.56	(風化欄)γランク	-
174	51.80	51.80	25° 割れ目に方解石と推定される白色鉱物が割れ目の一部に幅1mmの脈状に分布。	51.80	51.80	25° 割れ目に白色鉱物が割れ目の一部に幅1mmの脈状に分布。	51.80	51.80	51.80m: 傾斜25° で幅1mmの白色鉱物が不連続に脈状に分布する。	-

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H24-D1-4)

孔名: H24-D1-4

コア観察カード			適正化すべき記事内容			報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)			
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度	選定した記事内容				
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>							
175	51.56	52.07			80~90°の低密着割れ目が連続する。挟在物はない。	51.66	52.07	80~90°の低密着割れ目が連続する。挟在物はない。	51.66	52.07	51.66~52.07m: 傾斜80~90°の低密着割れ目が連続する。挟在物はない。	
176	52.07	52.55			硬さEのφ10~30mm主体の岩片と、岩片間を縫うように分布する幅1~5mmの軟弱な灰白色(5GY 0/1)~白色粘土脈からなる変質部。	52.07	52.55	硬さEのφ10~30mm主体の岩片と、岩片間を縫うように分布する幅1~5mmの軟弱な灰白色(5GY 8/1)~白色粘土脈からなる変質部。	52.07	52.55	52.07~52.55m: 径10~30mm主体の岩片と、岩片間を縫うように分布する幅1~5mmの軟弱な灰白~白色の粘土脈からなる変質部である。	記事欄以外から読み取れる硬さの情報は記載しない
177	52.07	52.07			45°幅7~8mm、の白色硬質粘土脈は方解石と推定される。	52.07	52.07	45°幅7~8mmの白色硬質石英脈。	52.07	52.07	52.07m: 傾斜45°で幅7~8mmの硬質な白色の石英脈を挟む。	
178	52.52	52.52			25°幅3~5mmの白色硬質粘土脈は方解石と推定される。25°の方解石脈は明オリブ灰(5GY 7/1)の幅2~3mmの軟弱粘土を伴う。	52.52	52.52	25°幅3~5mmの白色硬質石英脈。明オリブ灰色(5GY 7/1)の幅2~3mmの軟弱粘土を伴う。	52.52	52.52	52.52m: 傾斜25°で幅3~5mmの硬質な白色の石英脈を挟み、明オリブ灰色の幅2~3mmの軟弱粘土を伴う。	
179	52.55	52.97			不特定方向の割れ目、低密着割れ目が多く、φ10~30mmの硬さCの岩片からなる。両者の一部には幅0.5~1mmの方解石脈や、52.82m・28°割れ目には幅2mmの軟弱な緑灰色粘土脈を挟む。	52.55	52.97	不規則な割れ目、低密着割れ目が多く、φ10~30mmの硬さCの岩片からなる。両者の一部には幅0.5~1mmの石英脈や、52.82m・28°割れ目には幅2mmの軟弱な緑灰色粘土脈を挟む。	52.55	52.97	52.55~52.97m: 不規則な割れ目、低密着割れ目が多く、径10~30mmに岩片化する。一部に幅0.5~1mmの石英脈を挟み、52.82mの傾斜28°の割れ目には幅2mmの軟弱な緑灰色粘土脈を挟む。	記事欄以外から読み取れる硬さの情報は記載しない

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H24-D1-4)

孔名: H24-D1-4

コア観察カード			適正化すべき記事内容			報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	
記事			記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)			記事			
記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	
			追加変更した情報が正しく転記されているか？ <input checked="" type="checkbox"/>						
180	52.97	53.46	破砕帯	52.97	53.46	破砕部			●52.97～53.46m:破砕部 52.97～53.05m:粘土質礫状部(Hb) 上端50°、下端50°でともに直線的でシャープに連続。径1～2mmの石英粒と径5～10mmの大半が粘土化したGp岩片を多く含む軟質な灰白色(10YR 8/1)の粘土質礫状部。厚さ40mm。含まれる細粒部は網目状に分布し、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。
181	52.97	53.05	Hb 上端50°、下端50°で、両者とも直線的でシャープに連続。φ1～2mm石英粒とφ5～10mmの大半が粘土化したGp岩片を多く含む軟質な灰白色(10YR 8/1)の粘土質礫状部。厚さ40mm。含まれる細粒部は網目状に分布し、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。	52.97	53.05	Hb 上端50°、下端50°で、両者とも直線的でシャープに連続。φ1～2mm石英粒とφ5～10mmの大半が粘土化したGp岩片を多く含む軟質な灰白色(10YR 8/1)の粘土質礫状部。厚さ40mm。含まれる細粒部は網目状に分布し、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。			
182	53.05	53.05	Hu-1(主せん断面) 45°、幅3mmで直線的でシャープに連続する。軟弱な褐灰色(7.5YR 6/1)粘土。φ1～2mm石英粒を少量含む。	53.05	53.05	Hc 1(最新活動面) 45°、幅3mmで直線的であるが、連続しない。軟弱な褐灰色(7.5YR 6/1)粘土。φ1～2mm石英粒を少量含む。周囲との境界は漸移的。			
183	53.05	53.10	Hb 上端50°、下端不明瞭で、上端は直線的でシャープに連続。φ1～3mm石英粒、φ5～10mmの一部粘土化。一部硬さDの岩片を多く含む灰白色(10YR 8/1)の粘土質礫状部。厚さ30～40mm。	53.05	53.10	Hb 上端50°、下端不明瞭で、上端は直線的でシャープに連続。φ1～3mm石英粒、φ5～10mmの一部粘土化。一部硬さDの岩片を多く含む灰白色(10YR 8/1)の粘土質礫状部。厚さ30～40mm。軟質。含まれる細粒部は網目状に分布し、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。	52.97	53.46	●52.97～53.46m:破砕部 52.97～53.05m:粘土質礫状部(Hb) 上端50°、下端50°でともに直線的でシャープに連続。径1～2mmの石英粒と径5～10mmの大半が粘土化した花崗斑岩の岩片を多く含む。軟質。灰白色を呈する。幅40mm。 53.05m:粘土状部(Hc-1) 傾斜45°で直線的であるが、連続しない。幅3mmの軟質な褐灰色粘土からなる。径1～2mmの石英粒を少量含む。周囲との境界は漸移的である。 53.05～53.10m:粘土質礫状部(Hb) 上端50°で直線的に連続。下端はコア擾乱部で不明瞭。径1～3mmの石英粒、径5～10mmの一部粘土化。一部硬さDの岩片を多く含む。灰白色を呈する。幅30～40mm。 53.10～53.44m:粘土混じり角礫状部(Hj) 上端はコア擾乱部で不明瞭。下端45°でやや波打って連続。径5～20mmの硬さDと粘土化した基質からなる。基質中には幅1～2mmの軟質な白～緑灰色粘土脈が傾斜10～50°で分布する。全体に緑灰～にぶい橙～灰白色を呈する。 53.44～53.46m:粘土質礫状部(Hb) 上端45°でやや波打って漸移的に、下端45°で直線的にシャープに連続。径1mmの石英粒と径3mm前後の粘土化した花崗斑岩の岩片を少量含む。やや軟質。灰白～緑灰色を呈する。幅4～12mmと膨縮する。
184	53.10	53.44	Hj 上端不明瞭、下端45°で、上端はコア回転のため不明瞭。下端はやや波打って連続する。φ5～20mmの硬さDと粘土化した基質からなる角礫構造部で、基質中には幅1～2mmの軟弱な白色(10Y 8/1)～緑灰色(5GY 5/1)粘土脈が10～50°で分布する。全体的には粘土混じり岩片状で、緑灰(7.5GY 5/1)～にぶい橙(7.5YR 6/4)～灰白(10YR 8/1)を呈する。厚さ340mm(コア長)	53.10	53.44	Hj 上端不明瞭、下端45°で、上端はコア回転のため不明瞭。下端はやや波打って連続する。φ5～20mmの硬さDと粘土化した基質からなる角礫状部で、基質中には幅1～2mmの軟弱な白色(10Y 8/1)～緑灰色(5GY 5/1)粘土脈が10～50°で分布する。全体的には粘土混じり角礫状で、緑灰(7.5GY 5/1)～にぶい橙(7.5YR 6/4)～灰白色(10YR 8/1)を呈する。厚さ340mm(コア長) やや軟質。含まれる細粒部は網目状に分布し、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。			
185	53.44	53.46	He-2 上端45°、下端45°で、上端はやや波打って、下端は直線的でシャープに連続。φ1mm石英粒とφ3mm前後の粘土化したGp岩片を少量含む軟弱な灰白色(10YR 8/1)～緑灰(7.5GY 5/1)粘土。厚さ4～12mmと膨縮。	53.44	53.46	Hb 上端45°、下端45°で、上端はやや波打って漸移的。下端は直線的でシャープに連続。φ1mm石英粒とφ3mm前後の粘土化したGp岩片を少量含むやや軟質な灰白色(10YR 8/1)～緑灰色(7.5GY 5/1)の粘土質礫状部、厚さ4～12mmと膨縮。含まれる細粒部は直線的に乏しく、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織は見られる。			
186	53.44	53.46	(破砕度区分欄)He-2	53.44	53.46	(破砕度区分欄)Hb	53.44	53.46	(破砕度区分)Hb
187	52.46	53.68	軟しく軟化する。53.55m・55°、53.67m・70°の各割れ目に各々幅1mm、2～4mmの軟弱な緑灰色(7.5GY 5/1)粘土脈をはさむ。	53.46	53.68	著しく軟化する。53.55m・55°、53.67m・70°の各割れ目に各々幅1mm、幅2～4mmの軟質な緑灰色(7.5GY 5/1)粘土脈を挟む。	53.46	53.68	53.46～53.68m:著しく軟化する。53.55m・55°、53.67m・70°の各割れ目に各々幅1mm、幅2～4mmの軟質な緑灰色粘土脈を挟む。